

仕事が終わってからお疲れのところお集まりいただき、本当にありがとうございます。
ございます。

本日の集会の目的、国会情勢などについては、連合本部古賀会長、枝野民主党幹事長のあいさつにつきると思います。私は、少し角度を変えて申し上げます。記者の皆さんと話をすると労働者保護ルール問題をわかりやすく記事にするのは難しいと言われます。労働者保護ルールの改悪にストップをかけるためには、働く仲間、県民、国民の理解をもっと広げる必要があります。

何を訴えるか。現在の最大の政治課題は、国、地方を問わず、人口減少にどう歯止めをかけるか。そのためには若者定着を図らなければなりません。したがって、一生涯派遣を推進する労働者派遣法の改正は、若者の地元定着に役立つか、というものさしでの訴えが必要です。不安定雇用、低賃金が若者定着に役立つはずはありません。結婚、子育てにもマイナスであることは各種調査で明らかになっています。これが第一点です。

もう一点は、私たちの考え方が、なぜ、広がらないのかという問題です。それは、派遣労働は自分の問題ではない、他人の問題である。という意識が根強くあるということです。現実には、正社員であってもいつ首になるがわからない。首になったら、派遣社員であろうと、臨時社員、契約社員であろうと選んではいけないという現実があります。まずは、連合の組合員に自分の問題だという意識を広めなければなりません。自分の子供、自分の孫の問題でもあるという意識を広めなければなりません。

ひとりひとりの力は小さくとも、みんなの声を合わせれば大きな力となります。わたしたち連合山形は、18日に山形をスタートし、全県をキャラバンし、本日山形市で全国の仲間と連帯して県都集会を開催しています。各地域協議会でも開催しています。

また、安倍政権が強引に進めている集団的自衛権の行使、安全保障関連法案にも、民主党、社民党を中心とする野党と力を合わせ、何としても歯止めをかけなければなりません。

最後に、山形市長選の動向について報告いたします。新聞報道では、皆さんご承知の梅津ようせいさんの立候補が確実となっています。連合山形としては、本人の立候補表明、本人からの推薦要請を待ち、できるだけ、すみやかに政治センター、三役会議、執行委員会などを開催し、勝利に向けて連合山形の総力を結集していきたいと考えていますので、ご理解を頂きますようお願い申し上げます。

本日は短時間の集会となりますが、最後までよろしくようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。